

# 第5章 配置計画

## 5-1 施設配置の基本方針

<p>駐車場</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●主要地方道瀬戸大府東海線の利用者から、駐車場の混雑具合や屋内施設の様子が見えやすい配置とする</li> <li>●大型車が入りやすい配置とし、小型車と大型車の駐車スペースは分離する</li> <li>●子育て世帯にも駐車しやすいゆとりをもったレイアウトとする</li> <li>●障害者等駐車スペースは屋内施設に近い場所に設置する</li> <li>●「道の駅」にバス停留所を設置する</li> <li>●電気自動車用充電施設を設置する</li> <li>●進入路は次のとおりとする             <ol style="list-style-type: none"> <li>①主要地方道瀬戸大府東海線と市道本郷・藤島線の信号交差点（日進消防南）を利用してアクセスさせる</li> <li>②主要地方道瀬戸大府東海線から直接出入可能な出入口を設置する（左折による出入りのみ）</li> <li>③市道栄本郷線から市道本郷・藤島線を通り、南側から出入可能な出入口を設置する</li> </ol> </li> </ul>
<p>屋内施設</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●施設内動線を短くするため、分散配置することなくコンパクトに配置する</li> <li>●屋内施設への日当たりや冬期間の北西風に対応するため、屋内施設は南向きまたは東向きに配置することを基本とする</li> <li>●屋内施設は平屋建てもしくは2階建てとする</li> <li>●イベント時の花火の眺望に配慮する</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業体験施設は、主要地方道瀬戸大府東海線の東側にある既存施設を拡充する</li> <li>●子どもの遊び場、イベント利用等のためにまとまった公園・広場を確保する</li> <li>●防災拠点として、救助救援場所、防災ヘリポート、防災倉庫を設置する</li> <li>●防災イベントを開催できるよう防災倉庫に隣接してオープンスペースを設ける</li> <li>●イベント時の花火の眺望を極力確保する施設配置を検討する</li> </ul>



図 30 施設配置イメージ

## 5 - 2 施設配置の条件

防災ヘリポート及び貯留施設の配置条件は以下のとおりとなります。

### (1) 防災ヘリポート

中小型機が離発着できるヘリポートを設置（平常時は公園・広場として活用）します。

規模は「日進市地域防災計画」のヘリポートの基準等をふまえ、ヘリコプターが接地する着陸帯は 1,296 m<sup>2</sup>(36m×36m)と設定します。

原則として 8°の勾配の 450m以内に障害物がないことが必要です。

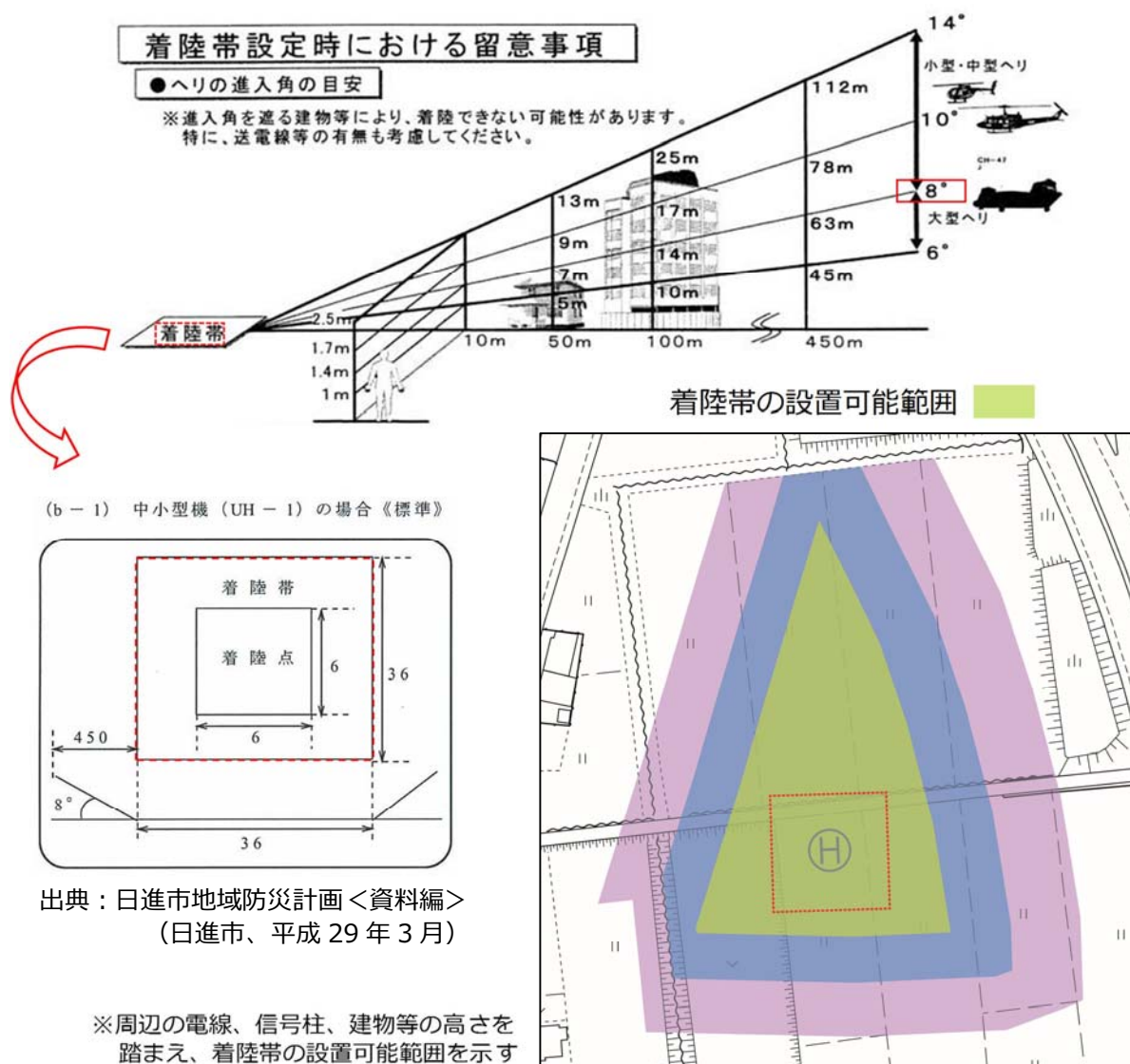


図 31 ヘリポート配置条件

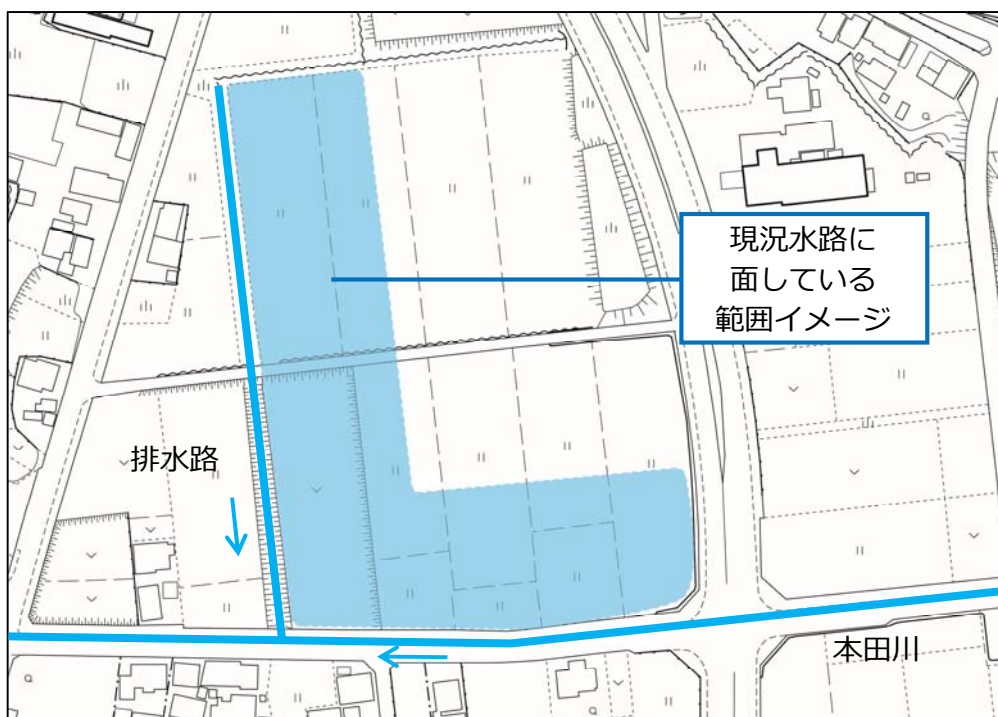
## (2) 貯留施設

敷地の有効活用、施設管理の安全面を考慮し、地下貯留施設とします。

放流先となる現況水路（東西方向の本田川、南北方向の排水路）に面している範囲に設置します。

表 21 地下貯留施設の設置可能場所

番号	施設名	可否
1	駐車場（休憩機能）	×
2	駐車場（地域連携機能）	○
3	建築物	×
4	公園・広場	○
5	防災ヘリポート	○



※設置推奨範囲以外においても、今後の詳細検討結果によって、施設を設置できる可能性はある

図 32 設置推奨範囲



## 5 - 3 施設配置検討




### (1) 土地形状の比較検討

縦型・中間型・横型の土地形状を想定して本施設の整備に必要な面積約 20,000 m<sup>2</sup>の施設配置イメージをレイアウトして比較検討を行い、「中間型」を採用します。

	土地形状	施設配置イメージ	
縦型	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側農地の残地が活用しづらく、土地所有者の理解が得にくい。</li> <li>縦長の形状であり、建物配置などに制約が生まれ効率的な土地利用ができない。</li> <li>住宅から離れているため、周辺住民への影響が少ない。</li> <li>市道本郷前田線の付け替えが必要となる。</li> <li>排水の流出先が南側（本田川）のみのため、排水計画に課題が残る。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者に「道の駅」をアピールしやすい。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者から駐車場の空き状況が分かりやすい。</li> </ul>		△
中間型	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側農地の残地は一定規模で残るため、土地所有者の理解を得やすい。</li> <li>概ね正方形の形状であり、建物配置など効率的な土地利用ができる。</li> <li>住宅から離れているため、周辺住民への影響が少ない。</li> <li>市道本郷前田線の付け替えが必要となる。</li> <li>排水路が2方向で接するため、排水計画において柔軟に対応できる。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者に「道の駅」をアピールしやすい。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者から駐車場の空き状況が分かりやすい。</li> </ul>		◎
横型	<ul style="list-style-type: none"> <li>北側農地は残る。</li> <li>横長の形状であり、建物配置などに制約が生まれ、効率的な土地利用ができない。</li> <li>住宅と隣接しているため、周辺住民への影響が大きい。</li> <li>市道本郷前田線の拡幅が必要となる。</li> <li>排水路の改修が必要となるため、工事費が高くなるほか、維持管理の課題が残る。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が短く、沿道利用者に「道の駅」をアピールしにくい。</li> <li>（主）瀬戸大府東海線と接する延長が短く、沿道利用者から駐車場の空き状況が分かりにくい。</li> </ul>		○

(2) 施設配置の比較検討

中間型の土地形状について、施設配置の3案比較を示します。

A案(第2回委員会提示案) ※第2回委員会議決案を微修正したものを		B案		C案	
施設配置 (案)					
土地形状	<p>北側農地の残地は一定規模で残るため、土地所有者の理解を得やすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>概ね正方形の形状であり、建物配置など効率的な土地利用ができる。</li> <li>住者から離れているため、周辺住民への影響が小さい。</li> <li>市道本郷前田線の付け替えが必要となる。</li> <li>排水路が2方向で接するため、排水計画において柔軟に対応できる。</li> <li>(主)瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者に道の駅をアピールしやすい。</li> <li>(主)瀬戸大府東海線と接する延長が長く、沿道利用者から駐車場の空き状況が分かりやすい。</li> </ul>				
①土地形状評価	◎				
施設配置	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> <li>(主)瀬戸大府東海線(北側入口)から流入する駐車待ち車両の吸収区間が長く確保できる</li> <li>駐車場が1つにまとまっているため利用しやすい</li> <li>大型車両と小型車両の駐車場が分離できる</li> <li>駐車場をコンパクトにしたため、その他施設の配置にゆとりがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(主)瀬戸大府東海線(北側入口)から流入する駐車待ち車両の吸収区間が長く確保できる</li> <li>駐車場が1つにまとまっているため利用しやすい</li> <li>大型車両と小型車両の駐車場が分離できる</li> <li>駐車場をコンパクトにしたため、その他施設の配置にゆとりがある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(主)瀬戸大府東海線(北側入口)から流入する駐車待ち車両の吸収区間がやや短い</li> <li>駐車場が2つに分かれ、小型車両はやや利用しにくい</li> <li>大型車両と小型車両の駐車場が分離できる</li> <li>駐車場の空き状況が分かりにくい</li> </ul>	△
	屋内施設等	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場や他の施設から屋内施設にアクセスしやすい</li> <li>屋内施設、駐車場から花火の眺望が得られる(一部、屋内施設の影響あり)</li> <li>農業体験施設と屋内施設が近く利用しやすい</li> <li>屋内施設に隣接して半屋外空間を設けることで、防災倉庫と広場の一体的な利用ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場や他の施設から屋内施設にアクセスしやすい</li> <li>屋内施設、駐車場から花火の眺望が得られる(一部、屋内施設の影響あり)</li> <li>農業体験施設と屋内施設が近く利用しやすい</li> <li>屋内施設に隣接して半屋外空間を設けることで、防災倉庫と広場の一体的な利用ができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場や他の施設から屋内施設にアクセスしやすい</li> <li>屋内施設、駐車場から花火の眺望が得られる(一部、屋内施設の影響あり)</li> <li>農業体験施設と屋内施設が近く利用しやすい</li> </ul>	○
	公園・広場	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内施設と駐車場に公園・広場が隣接するため、人の目につきやすく、利用頻度が高まる</li> <li>公園・広場と駐車場が隣接しており、イベント開催時に一体的に活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内施設と駐車場に公園・広場が隣接するため、人の目につきやすく、利用頻度が高まる</li> <li>公園・広場と駐車場が隣接しており、イベント開催時に一体的に活用できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>屋内施設と駐車場に公園・広場が囲まれているため、人の目につきやすく、利用頻度が高まる</li> <li>公園・広場と駐車場が隣接しており、イベント開催時に一体的に活用できるが、屋内施設により分断される</li> <li>子どもの遊び場である公園・広場が通路・駐車場に挟まれ、安全性が低い</li> </ul>	○
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場から各施設が全体的に利用しやすい</li> <li>くるりんばすの拠点が配置できない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場から各施設が全体的に利用しやすい</li> <li>くるりんばすの拠点が配置できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場から各施設が全体的に利用しやすい</li> <li>くるりんばすの拠点が配置できる</li> <li>防災倉庫が2階建てとなる</li> </ul>	◎
②施設配置評価	○	◎	◎	◎	◎
③総合評価	○	◎	◎	◎	◎

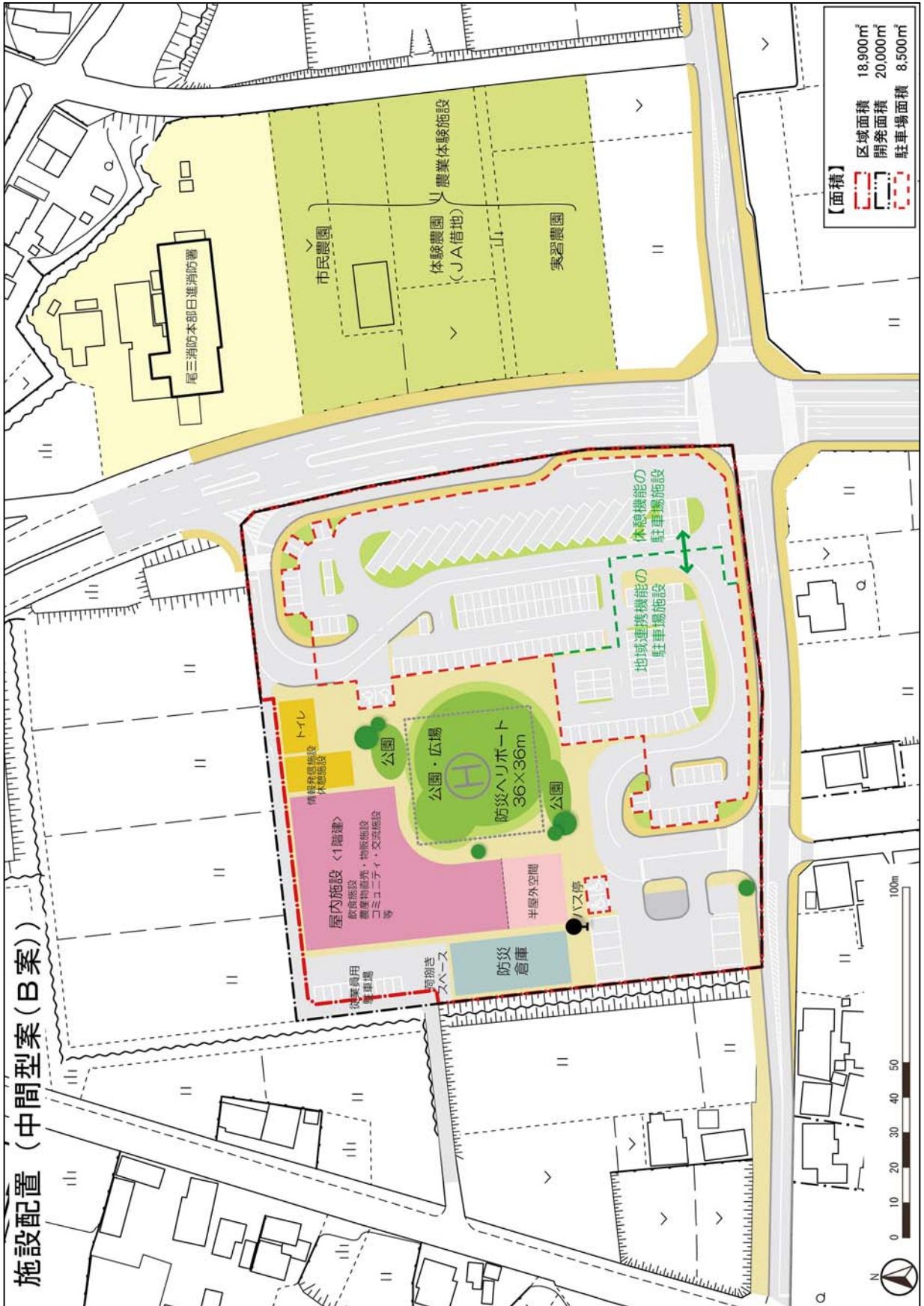


施設配置の3案比較より、総合評価の最も高い**B案**を採用します。

施設配置3案の詳細を示します。



※1 今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置（案）は大きく変わることがある  
 ※2 今後、予定している基本設計の段階で、施設配置（案）は変更となる可能性がある



※1 今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置(案)は大きく変わることがある  
 ※2 今後、予定している基本設計の段階で、施設配置(案)は変更となることがある





※1 今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置 (案) は大きく変わることがある

※2 今後、予定している基本設計の段階で、施設配置 (案) は変更となることがある



## 5-4 屋内施設等の配置案

中間型案（B案）をもとに屋内施設等の配置案と活動イメージを示します。

24時間利用可能なトイレ・情報発信施設・休憩施設は、地域連携機能の施設から分離して、駐車場から近く利用者が立ち寄りやすくするとともに、地域連携機能の施設とつなぐ通路等を整備します。

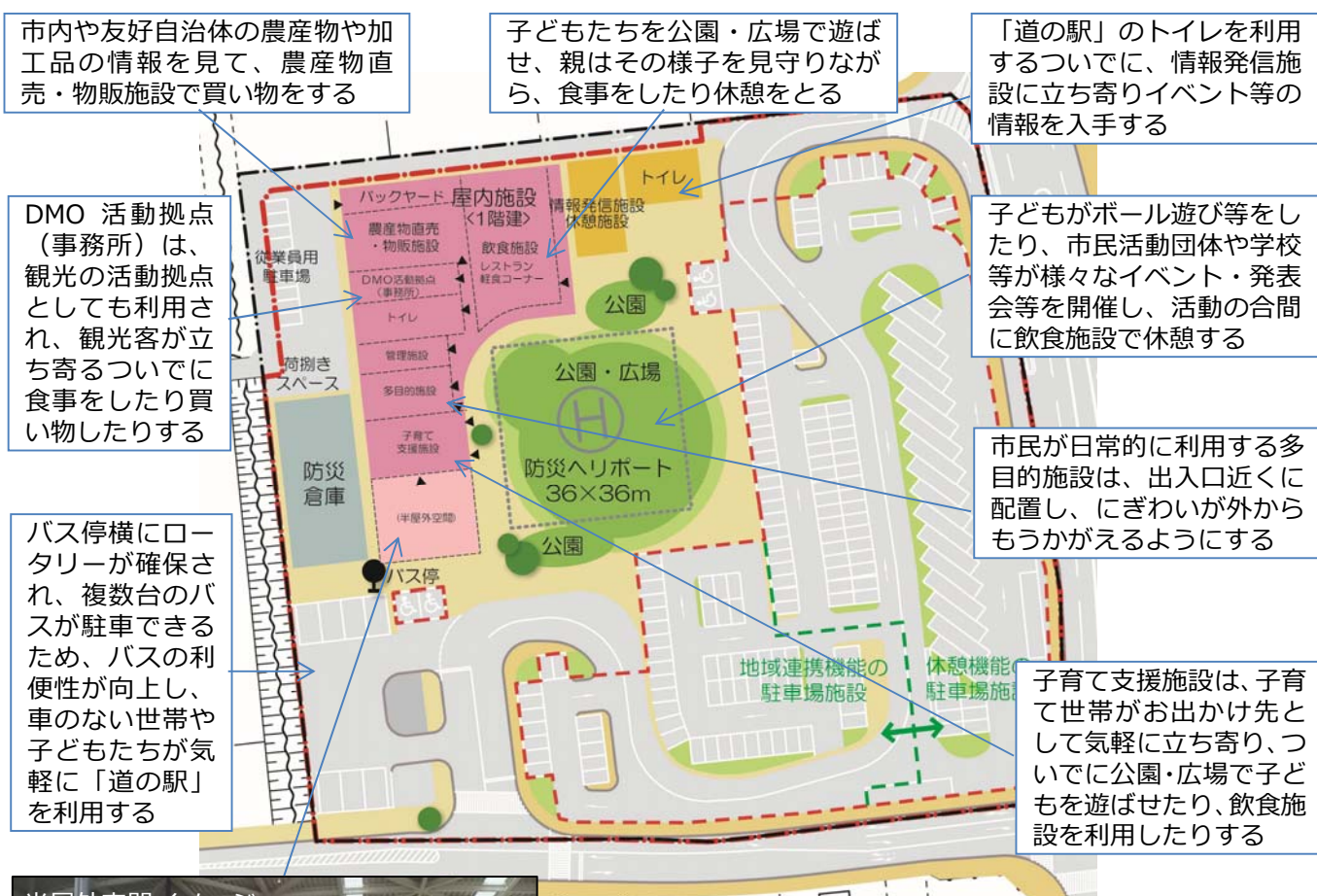
トイレ利用者が必ず情報発信施設を通して地域連携機能の施設に至る配置とします。

地域連携機能の施設は、北から順に飲食、物販、管理・コミュニティ機能を配置し、一般客から徐々に地域住民への利用頻度が高い配置順序とします。

四季を通じて快適に利用できるよう、地域連携機能の施設は一体的に配置するとともに、半屋外空間の通路等で各施設を結びます。

飲食施設は、建物前面に配置された公園・広場との一体的な活用を図ることができる配置とします。

バス停は、市民の利用に配慮し、コミュニティ・交流施設の近くに配置します。



※1 今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置（案）は大きく変わることがある

※2 今後、予定している基本設計の段階で、施設配置（案）は変更となることがある

図 33 配置案と活動イメージ

【参考】屋内施設イメージ

屋内施設の外観は、周辺環境と調和しつつ、日進市の新たなランドマークとして、主要地方道瀬戸大府東海線に対して視覚的にアピールできるデザインとします。

建物の形状は、建設コストに配慮し、できるだけシンプルなデザインとします。



道の駅 しもつけ  
(栃木県下野市)  
出典：下野市観光協会 HP



道の駅 まくらがの里こが  
(茨城県古河市)  
出典：道の駅まくらがの里こが HP



道の駅 たかの  
(広島県庄原市)  
出典：道の駅たかの HP



道の駅 あいづ  
(福島県河沼郡湯川村)  
出典：道の駅あいづ HP



道の駅 常陸大宮  
(茨城県常陸大宮市)  
出典：道の駅常陸大宮 HP



道の駅 ましこ  
(栃木県芳賀郡益子町)  
出典：益子町 HP



道の駅 フレッシュあさご  
(兵庫県朝来市)  
出典：道の駅フレッシュあさご HP



道の駅 那須高原友愛の森  
(栃木県那須郡那須町)  
出典：道の駅那須高原友愛の森 HP



道の駅 妹子の郷  
(滋賀県大津市)  
出典：大津市 HP



道の駅 多古あじさい館  
(千葉県香取郡多古町)  
出典：国土交通省関東地方整備局 HP



道の駅 ごか  
(茨城県猿島郡五霞町)  
出典：関東地方整備局 HP



道の駅 いぶすき  
(鹿児島県指宿市)  
出典：いぶすき観光ネット HP

※基本計画策定後に検討する基本設計の段階で、具体的なデザインを検討していく予定



## 5 - 5 交通等への配慮

### (1) 主要地方道瀬戸大府東海線の交通に配慮した施設配置の考え方

主要地方道瀬戸大府東海線からのスムーズな流入を確保し、周辺道路への影響を軽減するため、流入動線や入り口・駐車場等の施設配置の考え方について以下に示します。

表 22 主要地方道瀬戸大府東海線の交通に配慮した施設配置

配慮項目	概要
① 「道の駅」の入り口の分散	「道の駅」の入り口を2箇所に分けることで、渋滞緩和を図る。
② 「道の駅」へのアクセス道路の分散	「道の駅」へのアクセス道路を(主)瀬戸大府東海線だけでなく、市道栄本郷線からもアクセスできるようにし、市道本郷・藤島線を拡幅し、円滑な交通流を図ることとし、(主)瀬戸大府東海線に対する渋滞緩和を図る。
③ (主)瀬戸大府東海線の交差点改良等	(主)瀬戸大府東海線から「道の駅」へ円滑に出入りできるよう、左折レーンの設置、交差点改良を行う。
④ 案内板の設置	「道の駅」へのスムーズな進入ができるよう、案内板の設置を行う。
⑤ 駐車場の空き状況がわかる施設配置	駐車場の空き状況が(主)瀬戸大府東海線から容易にわかるよう、施設配置に配慮する。
⑥ 駐車場待ちの吸収区間の確保	(主)瀬戸大府東海線から「道の駅」の入り口までの部分に、駐車場待ちの吸収区間を確保する。

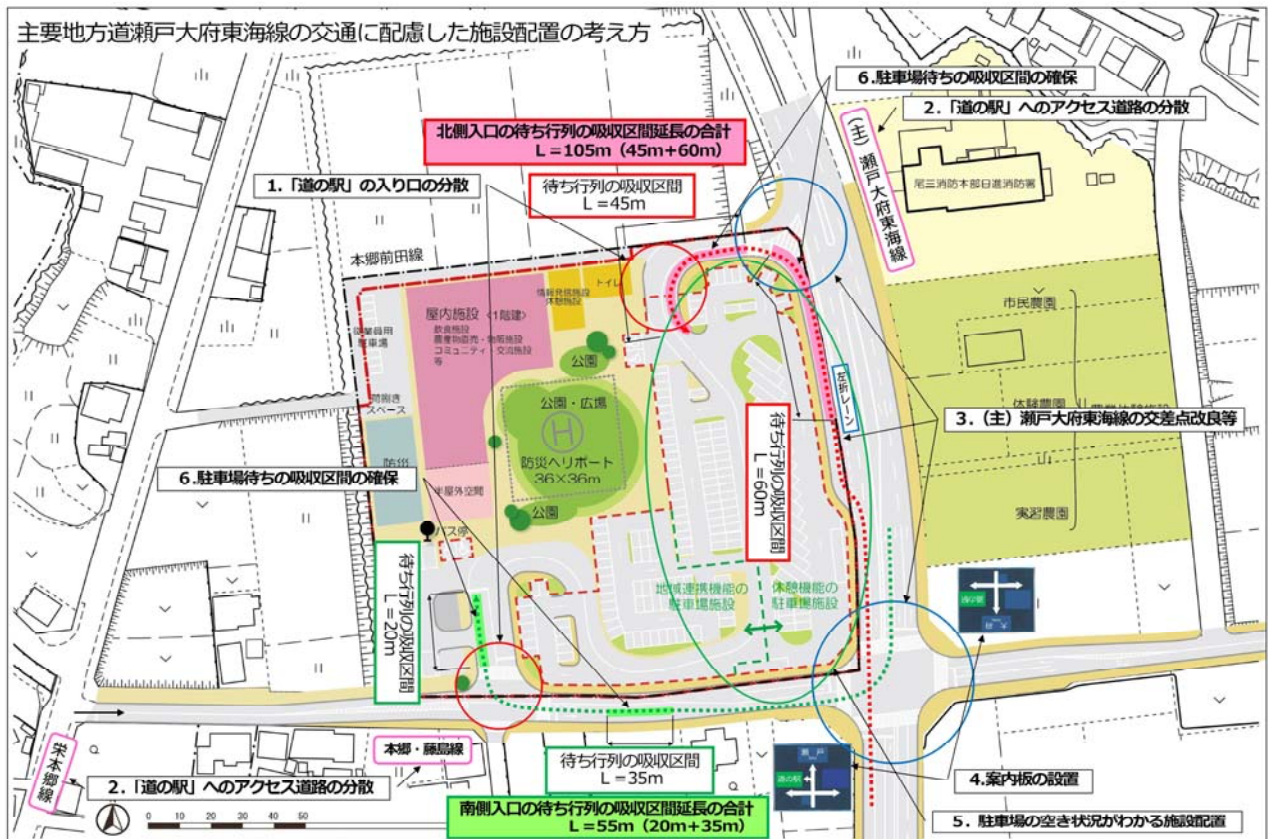


図 34 交通に配慮した施設配置

## (2) 「道の駅」内の交通に配慮した施設配置の考え方

「道の駅」内の交通面の安全性を確保するため、駐車場内の中央付近にメイン通路を設置し、施設から離れたエリア（主要地方道瀬戸大府東海線側）に大型車の駐車スペースを配置し、施設に近いエリアに小型車の駐車スペースを可能な限り配置し、歩行者と大型車の交錯を軽減する配置とします。

また、バス停においても、歩行者の安全性に配慮し、駐車場内を通過しない施設配置とします。

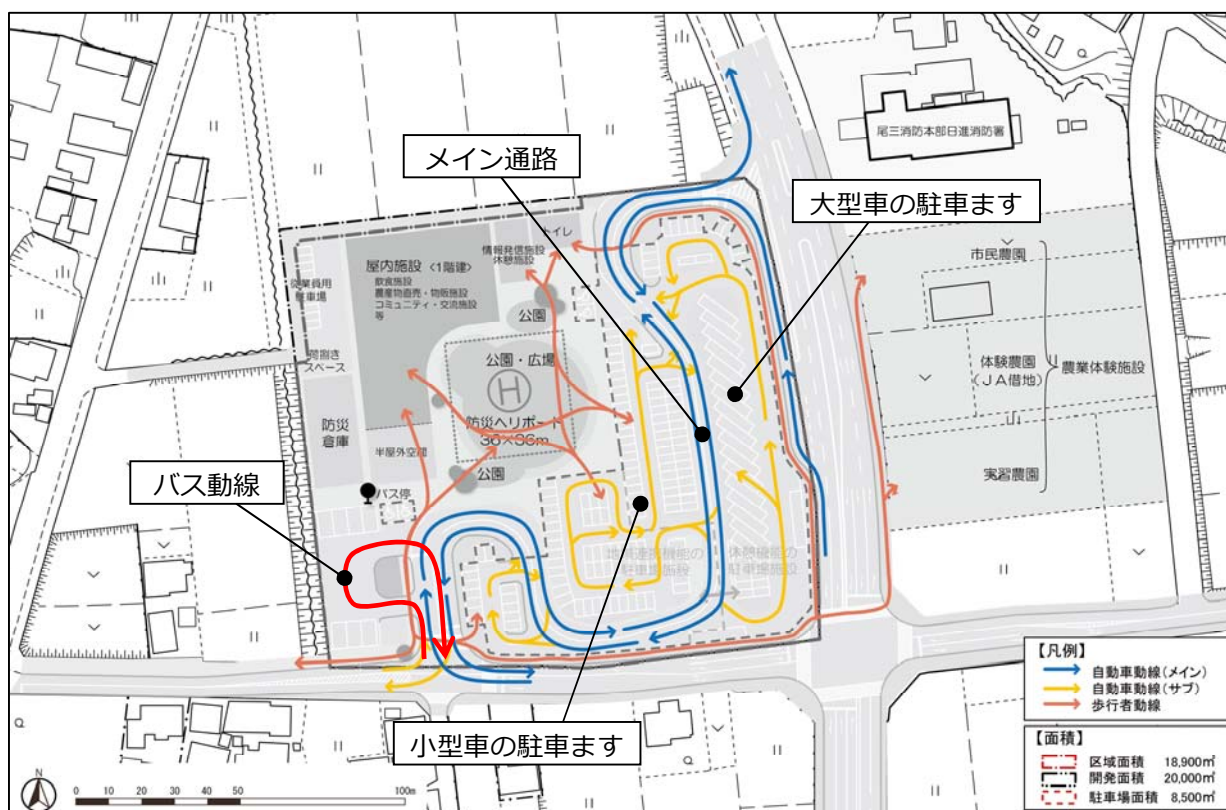


図 35 「道の駅」内の交通動線

※1今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置（案）は大きく変わることがある

※2今後、予定している基本設計の段階で、施設配置（案）は変更となる可能性がある



### (3) 施設利用の動線に配慮した施設配置の考え方

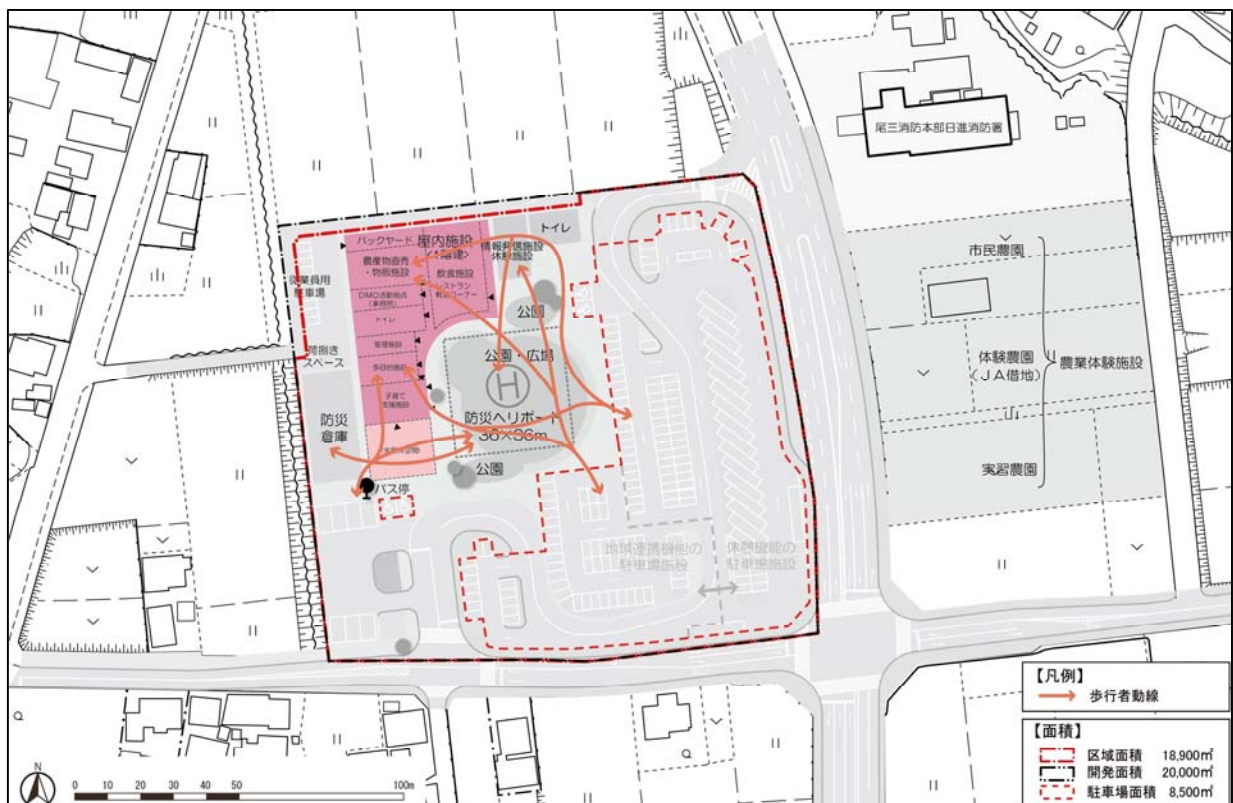
施設利用の動線に配慮した施設配置とします。

休憩機能の利用者は主にトイレ、情報発信施設・休憩施設を使うほか、屋内施設の中でも特に飲食施設や農産物直売・物販施設を利用することが考えられます。そのため、各施設がスムーズな流れで利用可能となるよう、休憩機能の駐車場施設からトイレ、情報発信施設・休憩施設へ向かう代表的な歩行者動線を考え、屋内施設の北側に飲食施設や農産物直売・物販施設を配置します。

地域連携機能の利用者は飲食施設や農産物直売・物販施設とともに、子育て支援施設や多目的施設などをメインとして利用することが考えられます。そのため、地域連携機能の駐車場施設及びバス停から屋内施設へ向かう代表的な歩行者動線を考え、屋内施設の南側に子育て支援施設、多目的施設を配置します。

公園・広場は、「道の駅」に訪れるすべての利用者が利用することを想定するとともに、「公園・広場で子どもを遊ばせ見守りながら食事や休憩をする」という市民活動イメージを踏まえ、いずれの施設にも近い敷地中央部分に配置します。

また、災害時の防災ヘリポートを兼ねる公園・広場と防災倉庫は、半屋外空間を通過してスムーズに行き来できるような配置とします。



※1今後、道路管理者等の関係機関との調整により、施設配置（案）は大きく変わることがある  
※2今後、予定している基本設計の段階で、施設配置（案）は変更となる可能性がある

## 5-6 イベント開催の可能性分析

市のイベント開催の状況は以下のとおりです。

※利用にあたっては、必要な代替機能を確保する等、道路管理者との調整が必要

番号	イベント名	主催	開催時期	来場者数 (H29)	出店者団体数	必要な平坦面積	主な必要施設
1	にっしん 夢まつり	商工会・市	9月	90,000人 (H28実績)	70店 (103ブース)	13,400㎡	出店ブース、 ステージ・本部 仮設トイレ、 バス発着場等
2	市民まつり (産業まつり)	市 (JA・商工会)	11月	42,000人 (20,000人)	約90ブース	11,000㎡	出店ブース、 ステージ・本部 バス発着場等

※ ( ) は産業まつり

中間型案 (B案) の施設配置では、平坦な面積は約 14,700㎡であるため、市のイベントに必要な面積が確保できます。

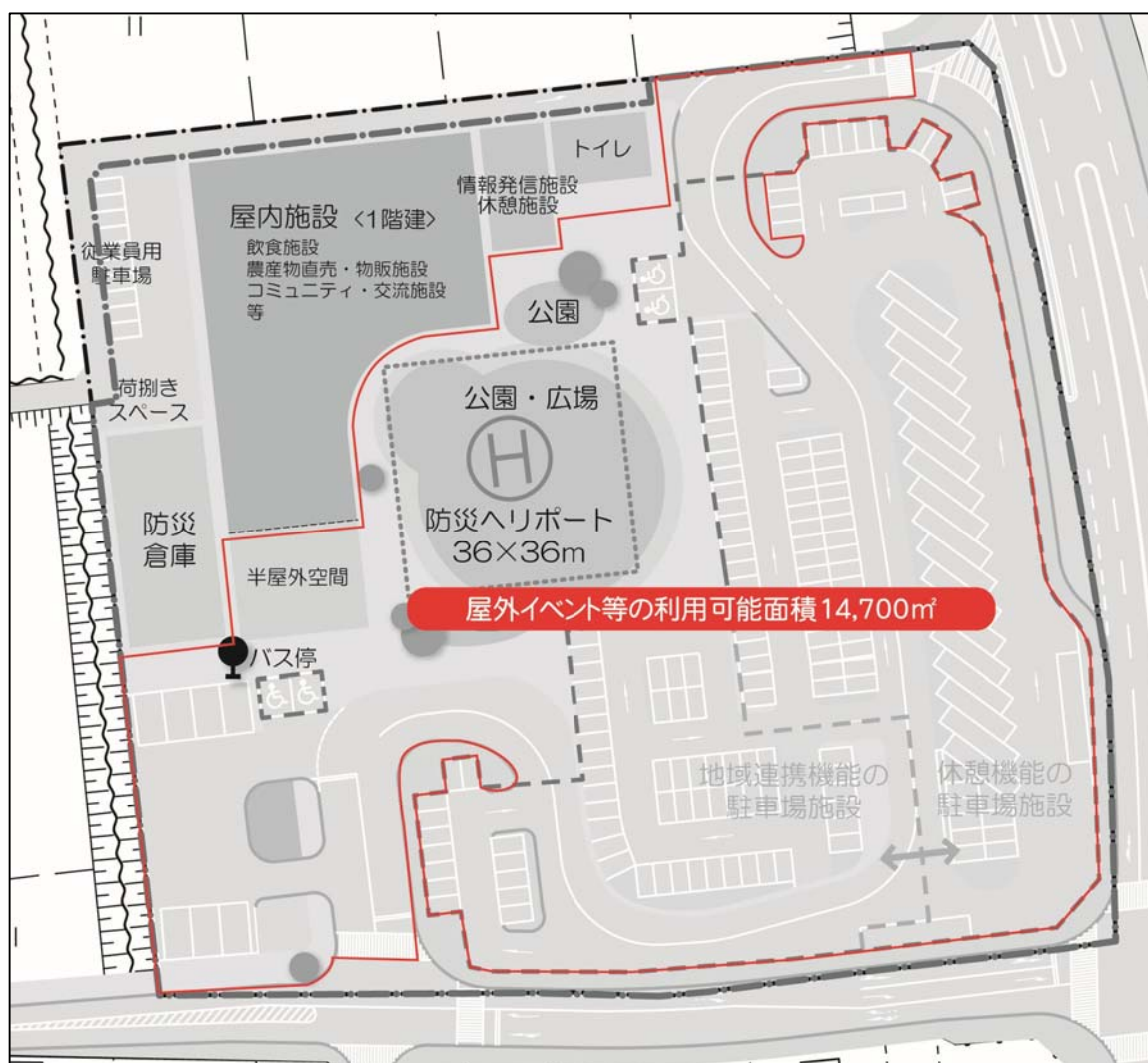


図 37 屋外イベント利用可能エリア





図 38 イベント開催の可能性 (にっしん夢まつり)